



北方領土

平成30年3月(第7号)

発行元:北方領土返還要求運動福島県民会議

福島県民会議通信



「北方領土福島県民会議通信」では、北方領土返還要求運動に取り組む福島県民会議の主な活動の様子について紹介しています。北方領土問題について、ひとりひとりが関心を深めることで、北方領土の早期返還を実現させましょう！

北方領土返還要求北海道・東北国民大会【平成29年8月25日】

本大会は、北方四島の早期返還実現を求めて外交交渉を強力に支援するとともに、粘り強く返還要求運動を推進し、国民世論の結集を図るもので、札幌市内で開催されました。

大会では、日露共同経済活動について領土返還に結びつく協議や四島の一括返還に向けた交渉を政府に要望する決議を採択しました。北海道と東北6県の関係機関、団体より約600名が参加し、本県民会議の小林 清美会長が副大会長を務めました。

(写真提供:北海道北方領土対策本部)



多楽島元島民3世 木村智美氏による返還アピール

平成29年度北方領土に関する標語・キャッチコピーについて

(独)北方領土問題対策協会では、毎年、北方領土について広く国民に認識してもらい、北方領土返還要求の世論の喚起を促すため、ノベルティや啓発用パンフレット等各種広告媒体に活用する標語・キャッチコピーを募集しています。

今年度の募集では全国から6,350作品の応募があり、選考の結果、以下のとおり入選作品が決定し、南相馬市の佐藤 隆貴氏の作品が最優秀賞に選ばれました。

最優秀賞 「声届け 開けよう扉 四島返還」 佐藤 隆貴 (福島県南相馬市)

優 秀 賞 「未来図を 描いて対話 四島返還」 牛田 正行 (愛知県名古屋市)

「知る歴史 見つめる未来 北方領土」 梶 政幸 (千葉県長生郡白子町)

「声つなぎ 四島へとつなぐ 返還の輪」 鈴木 富士夫 (埼玉県ふじみ野市)

「語り合おう四島の未来 高めよう返還の世論」 白石 圭佑 (東京都港区)

北方領土返還要求中央アピール行進【平成29年12月1日】

北方領土問題に対する国民世論の喚起高揚を図ることを目的に、東京都銀座周辺でアピール行進が実施されました。日比谷公園大音楽堂で行われた出発式には、江崎北方担当大臣が出席し、参加者を激励するとともに、「北方四島の帰属の問題を解決して日露平和条約を締結するという我が国の一貫した基本方針の下、交渉を前進させていくこととしております。私も北方対策担当大臣として、引き続き外交交渉を後押しする国民世論の啓発に全力で取り組んでまいります所存です。」と決意を述べました。

全国各地から約100団体、総勢500名を超える参加があり、国民の総意の証として全国47都道府県旗を一堂に集結し、「北方領土の返還を求めよう！」「北方四島の世論を盛り上げよう！」などとシュプレヒコールを上げながら、熱意あふれる行進をしました。本県民会議からは安齋理事(ボーイスカウト福島連盟)や瀧本事務局長ら5名が参加し、福島県旗を掲げて行進しました。



出発式の様子



都道府県旗を掲げて行進する参加者

北方領土パネル展【平成30年2月6日～9日】

2月の「北方領土返還運動全国強調月間」に合わせて、2月6日～7日にコラッセふくしま(福島市)、2月8日～9日に県庁舎内連絡通路において「北方領土パネル展」を開催しました。

北方領土の歴史や自然、日本人が住んでいた戦前の北方四島の様子などを紹介するパネルを展示したほか、パンフレットや啓発グッズ(ボールペン等)を配布しました。北方領土イメージキャラクター「エリカちゃん:エトピリカ(北方領土の周辺海域に生息する海鳥)の女の子」も登場して会場を盛り上げました。

また、コラッセふくしま会場ではクイズラリーを実施して、参加者100名に先着で北海道道東産の歯舞昆布をプレゼントしました。来場した方々からは、「わかりやすい説明・展示で改めて北方領土について知ることができてよかった。」等の感想が寄せられました。



北方領土返還要求全国大会【平成30年2月7日】

本大会は、官民の関係者が一堂に会し、北方領土返還要求運動が一層幅広く発展することを願うとともに、北方領土の早期返還を求める固い決意を内外に表明するものとして、昭和56年以来、毎年2月7日の「北方領土の日」に東京都で開催されています。本年は国立劇場で開催され、本県からは5名（県関係者2名、県民会議3名）が参加しました。

（写真：首相官邸ホームページ）



挨拶する安倍内閣総理大臣

安倍内閣総理大臣は、挨拶の中で北方領土問題の解決に向けた決意を次のとおり述べました。

「戦後72年が経過してもなお、日本とロシアの間には平和条約がないのは、異常な状態です。何とか、この状況を打開しなければならない。戦後ずっと残されてきたこの課題に私とプーチン大統領が、終止符を打つ。これまで20回の首脳会談を行い、その強い決意を両者で共有しております。」、「北方四島における共同経済活動については、昨年、地元の関係者の方々の参加も得て現地調査を実施し、早期に取り組むプロジェクト候補が特定されました。今後、プロジェクトを具体化するための作業を、隣接地域の発展を念頭において加速させてまいります。これらの取組は、平和条約の締結に向けた重要な歩みとなると確信しています。」、「もとより、過去70年以上にわたり解決できなかった平和条約の締結は、容易なことではありません。しかし、皆さんの北方四島への切実な思いをしっかりと胸に刻み、一步一步、着実に前に、進めていく所存であります。」

大会の最後にはアピールが採択され、一刻も早い北方四島の返還実現を目指す国民の固い決意が内外に表明されました。

北方領土返還運動全国強調月間【平成30年2月】

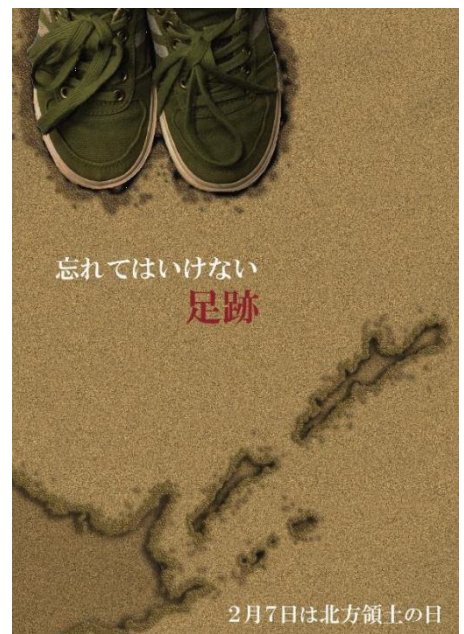
2月は「北方領土返還運動全国強調月間」であり、2月7日の「北方領土の日」を中心に全国各地で積極的な返還要求運動が展開されました。

本県民会議では、福島市におけるパネル展、県内4市（福島、郡山、いわき、会津若松）の路線バスのフロントマスク啓発広告、県内主要駅（JR福島駅、郡山駅、会津若松駅、いわき駅、新白河駅）におけるポスターの掲示、福島交通飯坂線車内における中吊り広告などを実施して、運動への理解と参加を広く呼びかけました。

また、2月7日の「北方領土の日」を周知するために、2月6～7日には県内全域でラジオスポットCMを放送しました。

県内主要駅に掲示したポスターデザイン →

平成29年度『北方領土の日』ポスターコンテスト(北海道庁主催) 最優秀賞受賞作品



平成29年度北方領土に関する全国スピーチコンテスト

【平成30年2月24日】

このスピーチコンテストは、次代を担う若い世代(対象:中学生)が北方領土問題を身近な問題として捉え、この問題に関心を持ち、北方領土に関する歴史等を正しく理解することをねらいとし、より一層の北方領土教育の充実と強化を図ることを目的として、平成23年度から実施されています。

(写真提供:(独)北方領土問題対策協会)

今年度は全国から6,782作品(本県から5作品)の応募があり、第1次・第2次選考(書面)を通過した応募者10名が、2月24日に東京都内で開催された最終選考会において約5分間のスピーチ発表を行い、審査委員の投票により内閣府特命担当大臣賞など各賞が決定されました。



発表者たちの集合写真(右から3番目が草野さん)



スピーチする草野日菜子さん

本県から郡山市立郡山第七中学校2年の草野日菜子さんが最終選考会に出場し、「古里をつなぐ」という題目でスピーチ発表し、審査委員特別賞を受賞しました。草野さんは、平成29年7月に本県民会議が主催した北方領土青少年等現地視察事業に参加し、それをきっかけにコンテストに応募しています。視察事業で聴講した元島民の方の「古里」を追われた苦しい経験や自身の原発事故による「古里」からの一時避難の経験、また、現在島で暮らす人々にとっては、四島が「古里」であることなどについてスピーチし、最後に次のように話しました。

これから自分ができることは何だろう。まず一つは、全国のみんなに今のこの状況を知ってもらうことです。何も知らなかった私が、今こうして考えているように、家族や同級生、福島県の人や全国の人に少しでも北方領土について知ってもらう事です。それぞれの立場で解決の方法を考え、話し合い、理解を深め合う事です。これは、一部の人の問題ではなく、それぞれに世代をつなぐ者としての責任があると思うからです。

※草野さんのスピーチ原稿の一部を抜粋しています。実際のスピーチの際は、言い回しを若干変えている場合があります。

【編集・発行】

北方領土返還要求運動福島県民会議

事務局：〒960-8670 福島市杉妻町 2-16 (福島県総務部県民広聴室内)

TEL:024-521-7013 Fax:024-521-7934 Mail:koucho@pref.fukushima.lg.jp



イメージキャラクター「エリカちゃん」、「エリオくん」